◇委員の紹介◇

**ニッセイアセットマネジメント株式会社**
**執行役員チーフ・コーポレートガバナンス・オフィサー**
**井口　譲二**

日本で、初めてのサステナビリティ開示基準である SSBJ 基準の策定に携われ、大変、光栄に思っております。SSBJ 基準は、ISSB 基準と機能的に整合的な基準（形は違っても、開示される情報は ISSB 基準と同じ）になっていると思っております。また、SSBJ 基準では、ISSB 基準のすべての要求事項を受け入れつつ、より効率的な適用を目指し、日本独自の対応（例えば、温暖化法に伴う開示の活用）を基準に明記するなど、まさに ISSB 基準をグローバルベースラインとして活用しきった基準と考えています。

前回も記載させていただきましたが、私のサステナビリティ情報との出会いは、今から 18 年前の 2004 年で、私が属している運用会社のアナリストチームのヘッド（統括）として、企業分析で活用する、中長期業績予想のプラットフォームの導入の定着に努めていたときとなります。このプロセスを通じ、中長期的な企業価値分析においては、財務諸表分析に加え、将来的な企業のキャッシュフローに関わる「財務情報以外の情報」を分析することの重要性がよく理解できたからです。今から考えると、この情報こそ、SSBJ 基準が焦点をあてる、「サステナビリティ関連財務情報」でした。

当時は、このような「財務情報以外の情報」を「非財務情報」と呼んでおりましたが、財務分析に活用する情報を「非財務情報」と呼ぶことに関しては、個人的には違和感がありました。しかし、このような情報が、ISSB 基準と SSBJ 基準で、「サステナビリティ関連財務情報」として、財務情報の一部として位置づけられたことは、投資家にとっても、大変、大きな整理がなされたと思っております。

さて、今後の SSBJ での活動についてです。投資家ということもあり、以前からグローバル基準である ISSB 基準との整合性の重要性はとりわけ強く意識していましたが、SSBJ 基準の公開草案を通じ、グローバル投資家から多くの意見をいただき、改めて、SSBJ 基準に対する、グローバル投資家からの注目度の高さに驚かされました。今後とも、海外投資家との意見交換は継続しつつ、グローバル投資家への期待にも応えられるような貢献をしていきたく思っております。

また、一旦、SSBJ 基準の策定は完了しましたが、ISSB の動きとして、S2 の改訂、SASB スタンダードのアップデート、S2 に続く、新しい基準の策定なども想定され、SSBJ でも、こ

ういった動きに対応する必要があると考えていますので、個人的にも貢献していきたく思っています。